

## 補聴と聴覚活用を語る 第17回サマーフォーラム2015 in 横浜

【期日】 2015年7月19日(日曜日) 10:10~ 20日(月曜・海の日) 15:40

【研究会会場】 横浜ワールドポーターズ(横浜市中区新港二丁目2番1号)

### 【プログラム】

#### <1日目>7月19日(日)

9時30分 受付開始

10時10分 オリエンテーション

10時20分 **特別報告「人工内耳と学力」** 齋藤 友介(大東文化大学)

近年、我が国においても全国的に学齢期にある人工内耳装用児(CI児)が増えている。

この報告では、海外における動向として、米国における学齢CI児の長期追跡研究の成果を紹介する。続いて、CIを装用する小学5年生から中学3年(計86人)を対象に実施した東京医科大学病院における学力調査(教研式NRT、国語と英語)の結果を中心に、我が国における学齢CI児の学力の現状と、関連する要因について、話題提供する。

11時30分 **人工内耳アップトゥーデイト「人工聴覚器の最新情報」** 城間 将江(国際医療福祉大学)

昨年の本フォーラムでは、人工内耳以外の人工聴覚器が日本に導入されはじめていることを伝えた。それらの機器が他国でどのように用いられ、どのように評価されているかについて、第10回アジア還太平洋の人工内耳関連学会Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences(5月北京にて開催)への参加雑感も含めて報告する。

12時00分 昼食

13時00分 **記念講演「社会の中の赤ちゃん」**

<講師> 開 一夫(東京大学 大学院総合文化研究科広域科学)

<講演概要>

講演前半では、我々が社会的相互作用の基盤メカニズムを明らかにすることを目標として行っている発達認知科学的研究について紹介する。具体的には「今性(newness)」と「応答性(responsiveness)」に着目して乳幼児を対象にして行っているいくつかの実験研究について述べる。こうした基礎的研究は小さな子どもを取りまく情報コミュニケーション技術をより良い方向に向けるためには必須であろう。講演後半では、ここ数年我々が取り組んでいる「教え・教えられる」人工物(ペダゴジカル・マシン)開発のための研究手法について紹介する。

15時00分 コーヒーブレイク

15時30分 **分科会** 4つの分科会に分かれて意見交換を行う

テーマ:「補聴器をめぐる課題」「人工内耳をめぐる課題」

「聴覚活用における保護者支援」「軽度・中等度難聴をめぐる課題」

16時50分 **全体会** 「分科会報告をもとに、情報の共有をはかる」

17時30分 終了

18時10分 懇親会 ナビオス横浜 フレンチレストラン&カフェ「イルドテラス」

#### <2日目>7月20日(月)

9時00分 受付開始

9時15分 **補聴器アップツーデイト「福祉法の補聴器」** 中川 辰男（横浜国立大学）

中等度から重度の聴覚に障害がある0歳から小児に、障害者総合支援法の耳かけ型補聴器をフィッティングするための具体的な方法をお話します。7つの補聴器メーカーにご協力していただき、重度難聴用と中高度難聴用の耳かけ型補聴器をお借りして、仮想のオーディオグラムに合わせてフィッティングした結果について報告し、各社の共通の特徴とユニークな点についてお話したいと思います。

10時15分 休憩

10時30分 **難聴の方から学ぶ「聴こえる人との共生」** 松谷 佑子(キャノン株式会社)

20才で人工内耳の手術を受け、卒業後は企業に就職、現在はキャノンの職員、2児の母です。

1才後半から補聴器を装用、幼児期の最初の頃は良耳が70 dB台でした。幼児期の途中から聴力の低下が始まり、音が響いてしまい補聴器を装用することが困難な日々が徐々に多くなり、中学の後半頃から大学までは、全くきこえない日々の連続でした。その当時の事を振り返りながら、「きこえ」「学習」「人とのコミュニケーション」を中心に、悩んだり考えたことを自分がどう受け止め、どう対処してきたかお話する予定です。

11時40分 昼食

12時40分 **「早期母子関係が子どものイメージ表象に及ぼす影響」**

小林 順子(国際医療福祉大学クリニック)

近年の乳幼児精神保健学会においては、母子の関係性の構築は「コミュニケーションミュージカリティ」によるといわれ大変重要視されています。今回は、赤ちゃんとお母さんとの関係の中で、音声でのやり取りがいかに母子の愛着行動形成に繋がるか、さらにその関係性が言語の基礎となるイメージ表象の形成に繋がるかについて臨床心理士の立場から話題提供いたします。

13時40分 休憩

14時 00分 **「前言語期のコミュニケーション発達を支える～相互的關係性の構築と聴覚学習」**

中村 公枝（前国立障害者リハビリテーション学院）

聴覚障害児の早期発見・早期ハビリテーションは可能になったが、乳児期の聴覚障害児のハビリテーションには多くの臨床的な課題がある。特に前言語期のコミュニケーション発達を促すための相互的關係性の構築は、その後の母子関係、言語習得、状況・環境認識、対人理解など多くの発達や学習に影響する。そこで前言語期のコミュニケーション発達の意味を定型発達児に学び、聴覚障害児とその保護者へのアプローチについて具体例を通して考察する。

15時30分 まとめ

15時40分 終了